

防災チエツクポイント

『今も昔も災害との闘い』

防災対策特別委員会



戦後の自然災害で思い出されるのは、昭和25年9月13日、鹿児島県に上陸襲来したキジア台風です。この時、276年の長きにわたり不落を誇った錦帯橋は、錦川の増水に伴い流失し、その一部は周防大島の海岸にも漂着したそうです。

さらに、翌年のルース台風では大島瀬戸の鉄塔が倒壊し、大島郡全域が停電になるという非常事態となり、久賀地区においては家屋の全壊47戸、半壊485戸、浸水1,036戸という甚大な被害を出しました。

近年の自然災害は、地球温暖化により規模・頻度ともに年々拡大し、被災地の凄惨な状況は、恐怖感や危機感すら覚える昨今です。

本町では、重点施策の一つに「防災

安全対策」が掲げられており、地域における防災力の強化や災害対応力の向上が求められていることから、官民一体となって災害に強い町づくりに取り組みたいものです。過去の災害を知り、日頃から常に防災意識を持って、災害に備えておくことが減災につながります。

今回は、平成の時代に周防大島が被災した災害の記録を振り返ってみましょう。



昭和 26 年 浸水した久賀地区

平成3年9月27～28日	台風 19 号／県内全域で 500 億円以上の被害	
平成5年7月4日	豪雨／最大日降水量 145mm	
平成5年7月17日	豪雨／最大日降水量 181mm	
平成7年7月3日	豪雨／最大日降水量 180mm	
平成9年9月14日	台風 19 号／最大日降水量 180mm、最大 1 時間降水量 40mm	
平成10年9月17日	台風 10 号／最大日降水量 180mm、最大 1 時間降水量 35mm	
平成13年3月24日	芸予地震／大島全域で震度 5 弱	
平成16年6月24～27日	豪雨／総降水量 291mm	
平成16年9月7日	台風 18 号／橋病院南側からの越波により施設や車両に甚大な被害	
平成17年7月1～4日	豪雨／総降水量 429mm、最大 1 時間降水量 58mm	
平成26年3月14日	伊予灘を震源とする地震／周防大島町で震度 4	
平成30年7月6～7日	豪雨／土砂災害により浮島地区で甚大な被害	

平成 16 年 9 月 橋病院の駐車場

※ 降水量は安下庄地区で観測された記録